

トルコの 翌日物貸出金利の引き下げについて

ポイント① 翌日物貸出金利を9.5%に引き下げ

トルコ中央銀行は5月24日の金融政策決定会合で、市場予想通り、市場金利の上限となる翌日物貸出金利を10%から9.5%に引き下げました。主要政策金利である1週間物レポレートは7.5%に、市場金利の下限となる翌日物借入金利は7.25%に、それぞれ据え置きました。これにより、政策金利のコリドー（上限金利と下限金利の幅）が縮小しました。

翌日物貸出金利の引き下げは3会合連続となります。同中銀は3つある政策金利を最終的に一本化していく「単純化」を進めており、今回の決定は計画に沿った措置だと説明しています。

ポイント② ショックへの経済の耐性の強まりが背景

今回の翌日物貸出金利の引き下げ決定について、同中銀は、世界の金融市場のボラティリティが幾分上昇したものの、これまで実施してきた政策により、外的ショックに対する同国経済の耐性が強まっていることなどを理由として挙げています。

なお、同国では今月、中銀の独立性に理解を示していたダウトオール首相が事実上更迭され、後任に、利下げを強く要求するエルドアン大統領の側近であるユルドゥルム氏が内定しました。これにより、市場では政府から中銀への利下げ要求がさらに強まるリスクが懸念されていました。

ポイント③ トルコリラは上昇

今回の決定は、大幅な利下げを懸念していた市場に安心感をもたらす格好となりました。さらに、金融政策決定会合前に、財政規律を維持し、経済政策の実績があるとして市場からの信頼が厚いシムシェキ副首相の留任が決まったことなどを好感し、5月24日の外国為替市場（ニューヨーク時間17時頃）では、トルコリラは対米ドルで前日比1.7%程度、対円で同2.4%程度のトルコリラ高となりました。

図1：政策金利の推移

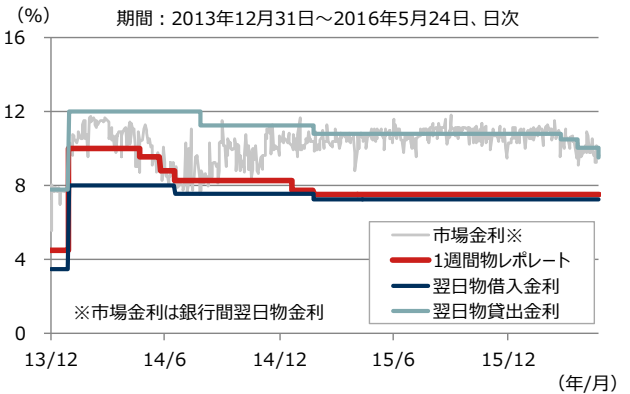


図2：消費者物価指数（前年同月比）の推移

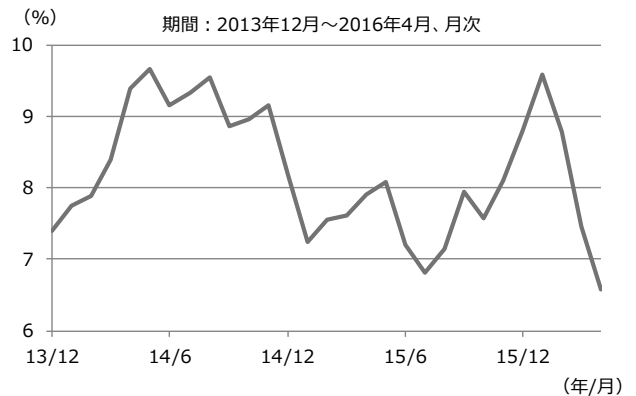


図3：為替レートの推移



（出所）Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

6月3日	消費者物価指数（5月）
6月10日	GDP（国内総生産、1-3月期）
6月21日	金融政策発表